

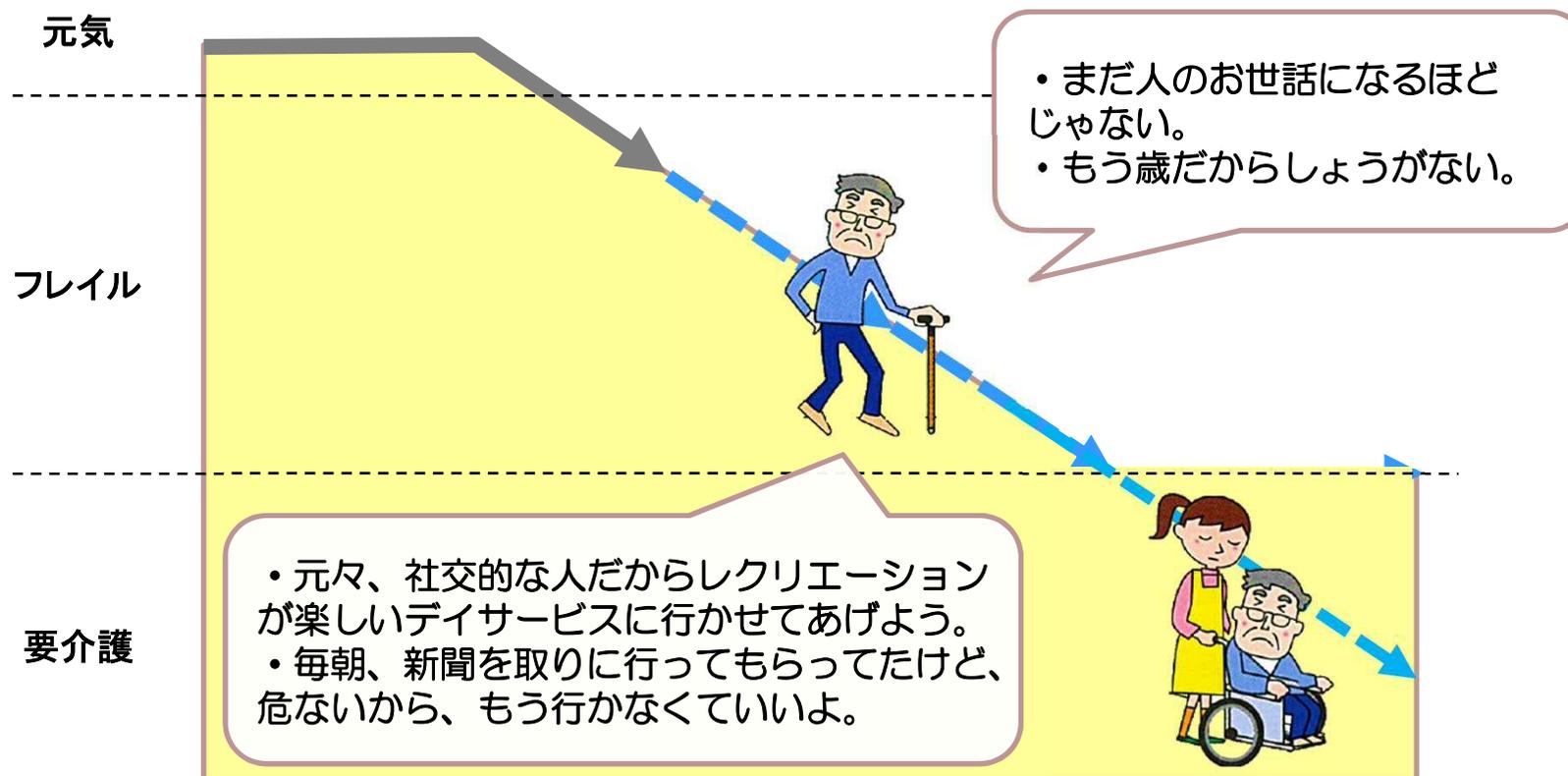
# フレイルの改善を目指した取組 「事例の共有と検討」

日常の療養支援



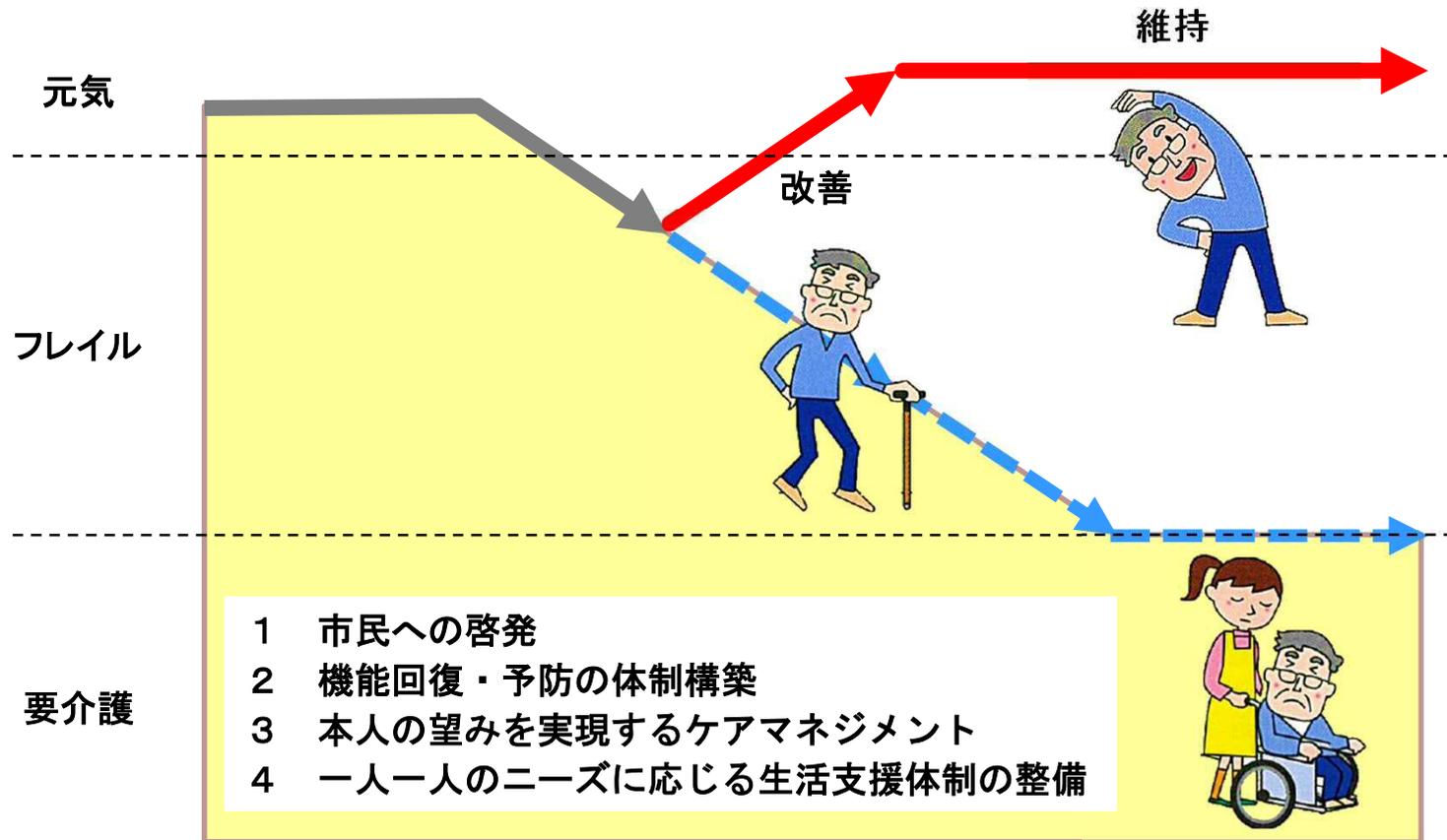
# フレイルの人への支援の現状

「フレイル = 改善可能な状態」なのに、、、  
本人は老いに気づいていない、年齢を理由にあきらめてしまう。  
家族や周囲の人は本人を心配して、できることを制限しがち。



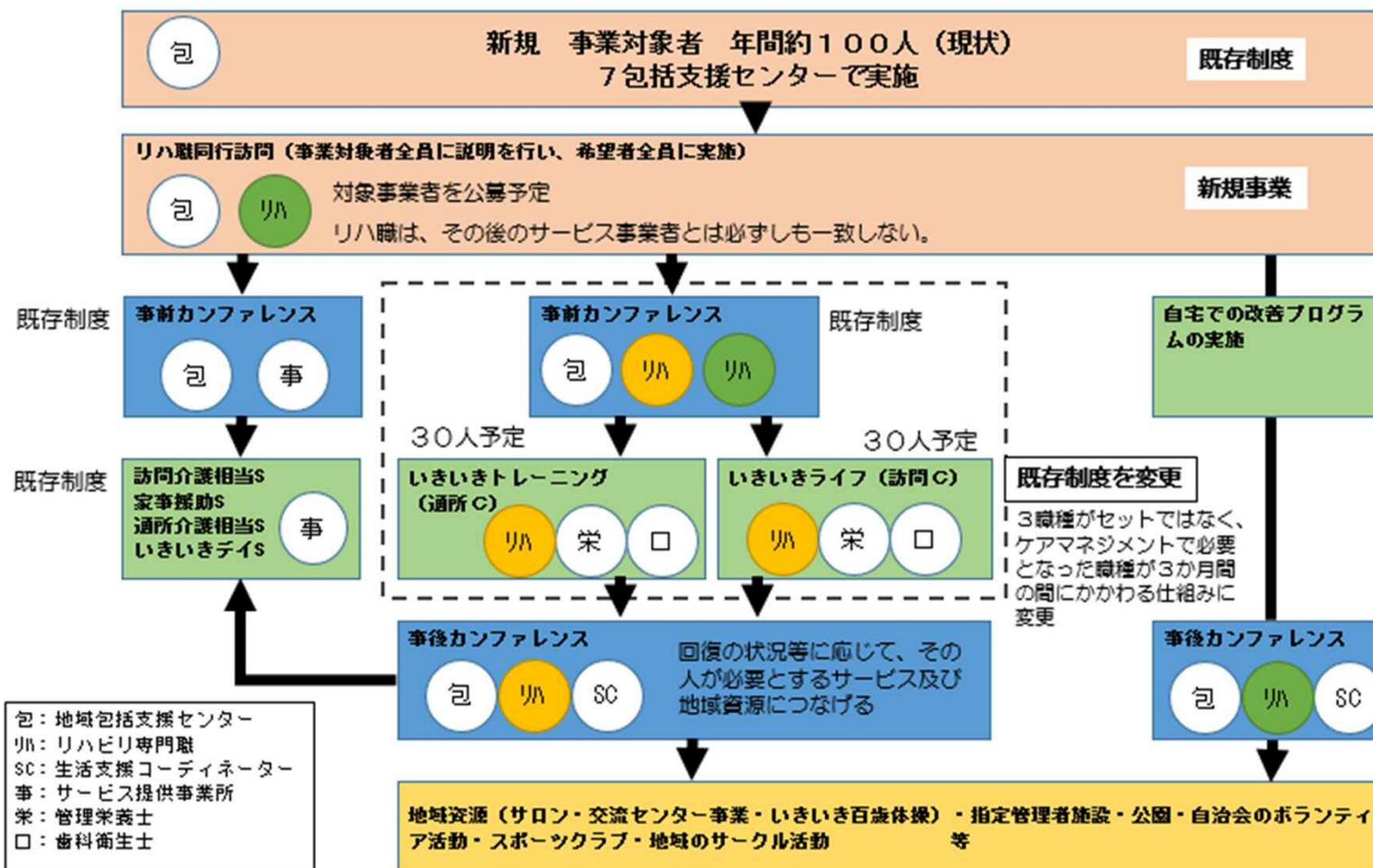
# 目指す姿と取組

高齢者がフレイルから改善して、自立した自分らしい暮らしが維持できることを目指す。  
…本当にケアが必要な人に、十分なサービスを提供することにつながる。

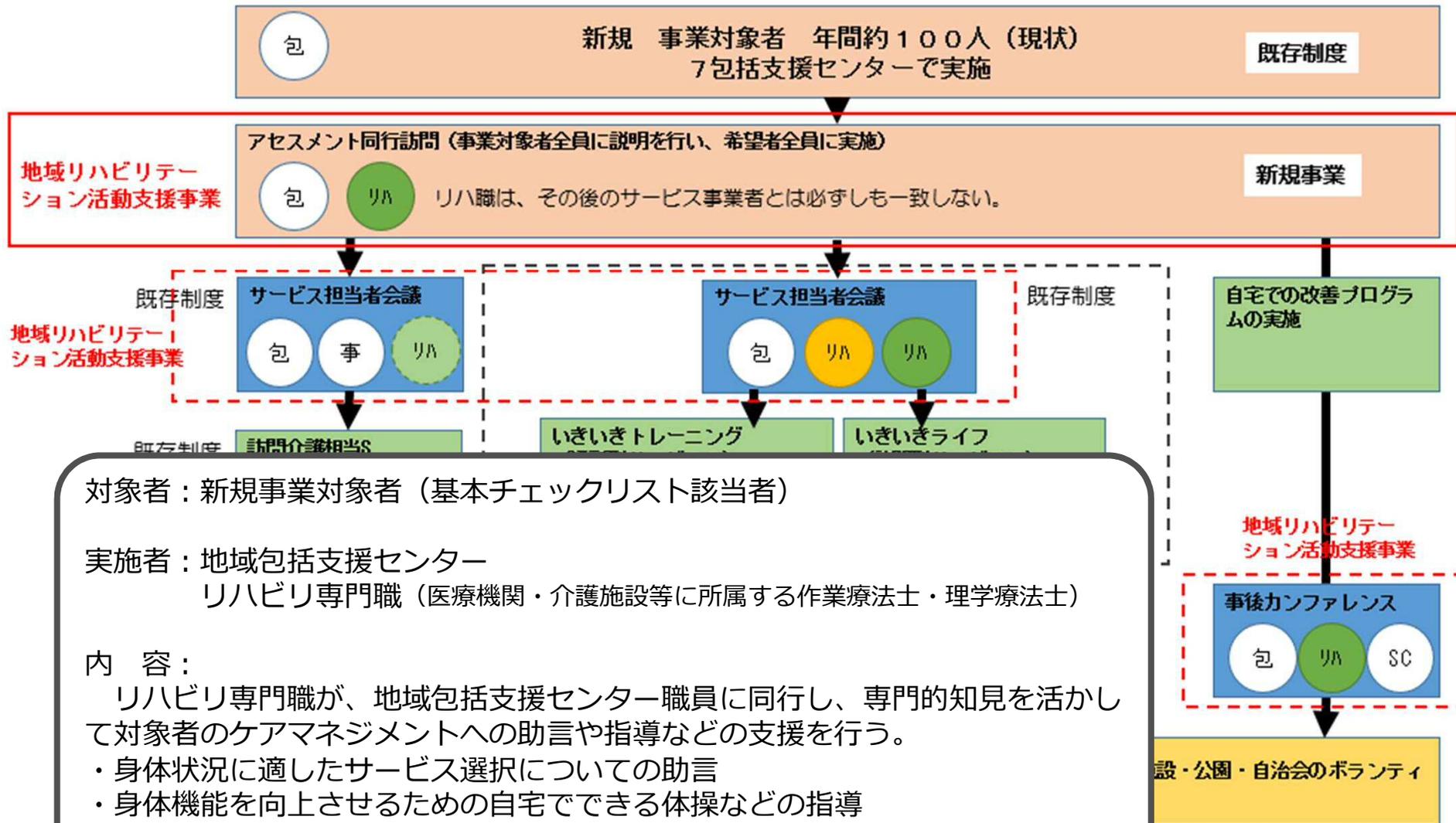


# 令和6年度 介護予防の体制

新規事業「地域リハビリテーション活動支援事業」と既存事業「短期集中予防サービスC」の見直しにより、フレイルから改善・自立した自分らしい暮らしが維持できる取組を進める。



# 地域リハビリテーション活動支援事業



# 短期集中予防事業

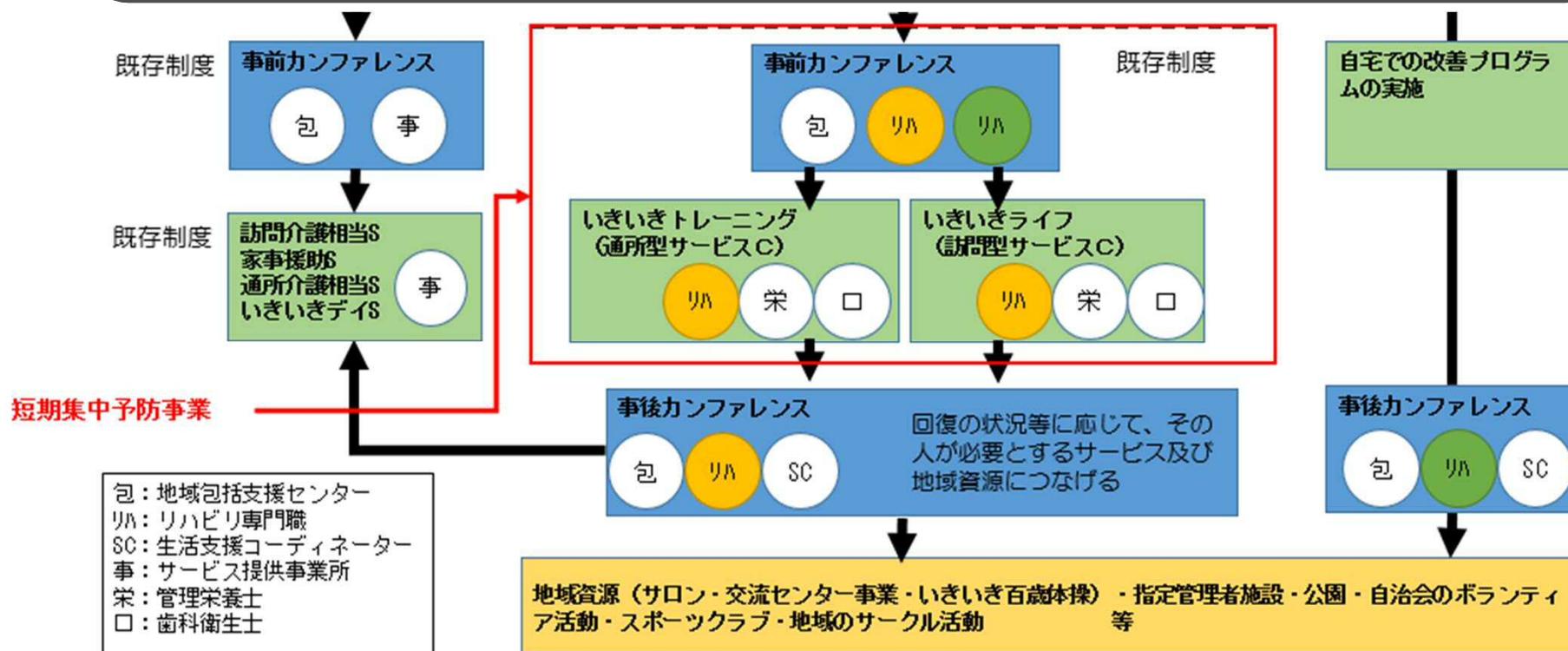
対象者：事業対象者・要支援認定者

実施者：運動・栄養・口腔の専門職

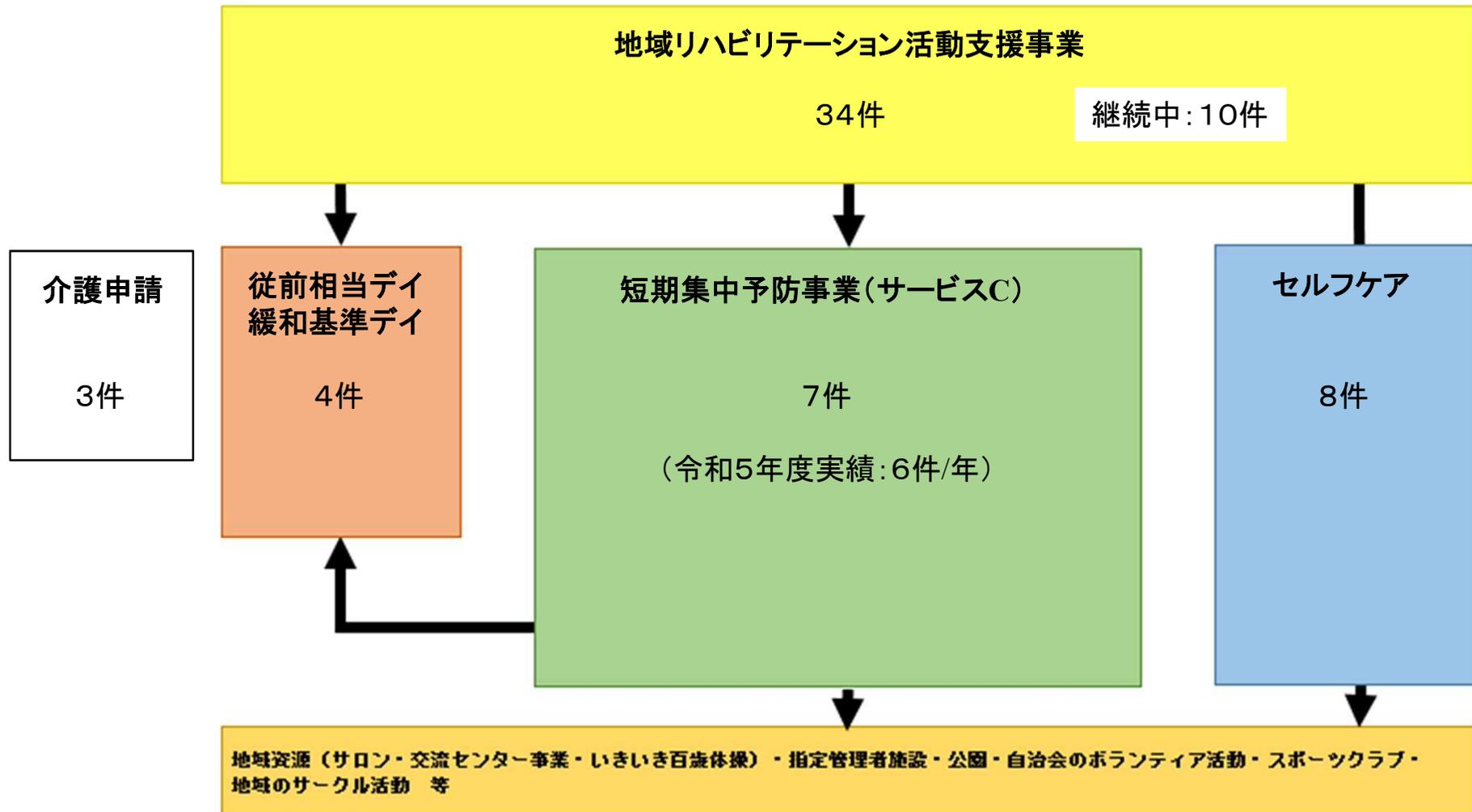
(医療機関・介護施設等に所属する作業療法士・理学療法士・柔道整復師・管理栄養士・歯科衛生士・言語聴覚士)

内容：

- ・提供回数：最大で12回
- ・実施期間：3か月間
- ・運動、栄養、口腔の回数は制限の中で組合せが可能



# 9月までの実績



## 目的

- ・地域リハビリテーション活動支援事業を実施する関係者が事業の目的を共通理解し、すべての対象者が本人の状態に応じた画一的な支援を受けることができるようにする。
- ・高齢者の暮らしに関わる地域の関係者が、地域リハビリテーション活動支援事業の事例を通じて「自分らしい暮らし」を理解し、その実現に向けた検討、課題抽出を行う。（地域ケア会議）

## 参加者

地域包括支援センター・リハビリ専門職・生活支援コーディネーター・薬剤師（薬剤師会から周知）

※今後拡大を図る予定

## 抽出された課題

- ☑ サービス終了後のつなぎ先が限られてること
- ☑ 移動支援（足）の問題
- ☑ 家族など周囲の人がサービス依存的であること
- ☑ 医療リハビリと本事業及び介護リハビリとの連携
- ☑ 多剤服用の問題

## 目 的

### 点の支援を面に広げる

- ・ アセスメント同行訪問をより活用するためには
- ・ どのケースでも自分らしい暮らしが目指せるように支援するには

### 自立した自分らしい暮らしを送るためにはどうしたらいいかを考える

- ・ みんなで考える（それぞれの視点、専門性を活かす）
- ・ ケースで考える（ケアプランの修正×）

## 多職種の役割

**保健師・看護師**：想定される医療上のリスク

**社会福祉士**：権利擁護的な視点

**主任ケアマネジャー**：自立支援の視点、サービスについて

**リハビリ専門職**：予後の予測、機能改善について、生活上の注意

**薬剤師**：服薬内容や症状のコントロールについて